

# エゾミソハギ

*Lythrum salicaria*

ミソハギ科

## 名前の由来

“蝦夷”は北海道に多く生えることから。“禊萩”は禊ぎ萩の略と言われる。“禊ぎ（みそぎ）”とは身と心の不浄を祓い去るため、主として水を用いて全身を清めることをいう。ちょうどお盆のころに咲くこの花をお供えに使うことからこの名がついた。

漢字名：蝦夷禊萩



エゾミソハギ

## 形態的特徴

水辺に直立する濃いピンク色の花が印象的。高さ50~150cmで、茎上には少し突起した稜が縦に4本はしる。葉には柄がなく広披針形で、基部が最も広く、対生する。葉の裏面やがく、茎などに白く細かい毛がある。花は紅紫色で、茎の上部に数多くつき、穂状になる。

類似種：特になし。



エゾミソハギの花



エゾミソハギ



エゾミソハギの葉。2つずつ向かい合ってつく。裏には細かい毛

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

日当たりのよい湿地や小川の縁などに生える。

**分布：**国外分布は、ユーラシア・アフリカ・北アメリカの温帯。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。河川下流域の平野部に多い。十勝地方では、日当たりのよい湿地や小川の縁などで生育する。主に十勝川下流域で見られる。



エゾミソハギは、日当たりの良い湿地などに生育する

## 生活史

開花時期：7月下旬～8月

寿命：多年草。

開花までの年数：不明

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

- エゾミソハギの雄しべと雌しべの長さは花によって違い、長いもの、中くらいのもの、短いものの3パターンがある。これは同じ花の花粉で受粉してしまう自家受粉を防ぐためだという。
- 薬用としては、花が終わった時期の全草を乾燥させて用い、下痢や赤痢、腸炎、膀胱炎などに効果があるという。



エゾミソハギ



エゾミソハギ

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「花のおもしろフィールド図鑑 夏」ピッキオ 実業之日本社 2001

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ